



2021年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年11月5日

上場会社名 京福電気鉄道株式会社
 コード番号 9049 URL <https://www.keifuku.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長
 四半期報告書提出予定日 2020年11月12日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 大塚 憲郎
 (氏名) 長尾 拓昭
 TEL 075-841-9385

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	4,975	23.8	349		94		116	
2020年3月期第2四半期	6,527	4.3	910	21.1	903	22.1	585	21.7

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 105百万円 (%) 2020年3月期第2四半期 649百万円 (22.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	58.71	
2020年3月期第2四半期	294.45	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	20,946	7,572	32.7
2020年3月期	20,740	7,720	33.7

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 6,851百万円 2020年3月期 6,998百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		20.00	20.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)					

(注) 2021年3月期の配当予想は未定であります。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,500	16.0	350		50		0	100.0	0.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い業績への影響を見通すことが困難であったことにより、未定としておりましたが、当第2四半期連結累計期間の業績等を踏まえて業績予想を算定いたしました。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	2,000,000 株	2020年3月期	2,000,000 株
期末自己株式数	2021年3月期2Q	12,020 株	2020年3月期	12,019 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	1,987,981 株	2020年3月期2Q	1,988,086 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。また、今後必要に応じて業績予想の修正を行う可能性があります。

なお、業績予想に関する事項については3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(追加情報)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が5月25日に解除されて以降も、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の収束が見通せない中で、出控え志向やイベント・会合等の中止といった経済活動の冷え込みは続き、極めて厳しい状況下で推移しました。

当社グループでは、旅客減少や事業活動への制限から大幅な減収となりましたが、お客様と職員の安全を最優先に、各事業部門において監督官庁の指導や各種ガイドラインに沿った感染防止対策を徹底しました。

当第2四半期連結累計期間では、緊急事態宣言が解除されて以降、僅かずつではありますが回復傾向が見られ、当社グループの営業収益は4,975百万円（前年同期比1,551百万円、23.8%減）となり、安全安心に直結するものを除くすべての費用において削減や執行時期の見直しを図るなど抑制に努めましたが、営業損失は349百万円（前年同期営業利益910百万円）となりました。これに新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例に基づく雇用調整助成金132百万円などの営業外収益および営業外費用を加減した経常損失は94百万円（前年同期経常利益903百万円）となり、特別利益および特別損失ならびに法人税等を加減した親会社株主に帰属する四半期純損失は116百万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純利益585百万円）と非常に厳しい結果となりました。

次に、セグメント別の状況をご報告いたします。

① 運輸業

鉄軌道事業、バス運送事業、タクシー事業の各事業ともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外出自粛や大学をはじめとする沿線の学校の休校、入国制限によるインバウンド需要の減少などにより旅客数が激減し、大幅な減収となりました。

こうした状況下ではあるものの、鉄軌道事業におきましては、嵐山線では鳴滝、宇多野、御室仁和寺各駅のバリアフリー化工事を完工し、ご利用客への「安全・安心」の提供に努めました。

バス運送事業におきましては、京都バス(株)、京福バス(株)では、需要状況に応じた運行ダイヤに変更するなど、効率的運用による輸送の確保と費用削減に加え、バス乗務員への教育研修の強化に取り組みました。

タクシー事業におきましては、有償貨物輸送の特例措置を活用した増収策として弁当のデリバリーサービスを行うほか、福井県初となるタクシーの乗車前に運賃を確定させる事前確定運賃を7月31日に申請するなど、実施可能な施策の積極的な推進に努めました。

なお、各事業におきまして、新型コロナウイルス感染予防対策業種別ガイドラインに準拠し、車内の消毒や換気、飛沫防止のためのビニールカーテンの設置など、感染予防対策を徹底するとともに、関係官庁等と連携し駅ポスターやホームページを通じた感染拡大防止の広報活動を実施、公共交通事業者としての役割を果たしました。

以上の結果、運輸業の営業収益は2,253百万円（前年同期比1,707百万円、43.1%減）となり、営業損失は889百万円（前年同期営業利益361百万円）となりました。

② 不動産業

不動産賃貸事業において、住居・事務所用の賃貸施設については新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響は少なく、概ね堅調に推移しました。一方で、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」は、外出自粛やインバウンド需要の減少で大幅な減収となりましたが、館内の空き室スペースを活用し開業110周年を迎えた嵐電の写真や映像、電車のヘッドマークを展示する「RANDEN GALLERY」を企画開催し、あわせて期間限定で駅ビル屋上からの景観を楽しめるイベントを実施するなど、集客とともに施設の有効活用や価値の向上に取り組みました。「BOAT RACE（ボートレース）三国」では、2020年2月28日から6月23日まで、感染防止のための無観客レース開催となりましたが、レース情報の配信サービス強化やキャンペーン実施などの販売強化策の実施により電話投票売上が好調に推移したことから増収となりました。

不動産販売事業におきましては、京都・福井それぞれで「安全・安心の住まい」を提供する新築分譲住宅「京福の家」の販売に向け、従来の対面式だけでなく、専用ホームページやインターネット広告を活用した営業活動に努めました。

以上の結果、不動産業の営業収益は2,399百万円（前年同期比660百万円、38.0%増）となり、営業利益は647百万円（前年同期比234百万円、56.7%増）となりました。

③ レジャー・サービス業

レジャー・サービス業における物販業・ホテル業・水族館業はともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外出自粛・宴会自粛などの影響を受け大幅な減収となりました。

このような状況ではありますが、コロナ禍を前向きにとらえ、三国観光ホテルでは福井県独自の県内需要喚起策「福井deお泊りキャンペーン」に参画して地元客の利用促進を図り、越前松島水族館では「三密」を避けるため、「イルカショー」の回数を増やし入場制限を実施したほか、修学旅行などの団体のみで楽しんでいただける「夜間貸切」プランを充実させるなど工夫を凝らした営業に取り組みました。

以上の結果、レジャー・サービス業の営業収益は486百万円（前年同期比562百万円、53.7%減）となり、営業損失は105百万円（前年同期営業利益133万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産は、減価償却により有形固定資産が減少しましたが、現金及び預金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ206百万円増加し、20,946百万円となりました。負債は、未払金の支払による減少がありましたが、長期借入金の借入などにより、前連結会計年度末に比べ354百万円増加し、13,374百万円となりました。純資産は、期末配当を実施したほか、親会社株主に帰属する四半期純損失による利益剰余金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ148百万円減少し、7,572百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、訪日外国人の減少だけでなく外出の自粛要請による出控え等により国内消費は大きく減少しており、通常の事業活動が見通せない状況を踏まえ未定としておりましたが、海外インバウンド需要は見込めないものの、緩やかながら回復傾向にある現状を踏まえ、更なる新型コロナウイルス感染症の大幅な感染拡大が発生しないことを前提に業績予想を算定いたしました。

2021年3月期の通期連結業績予想は、営業収益10,500百万円（前期比16.0%減）、営業損失350百万円（前期営業利益832百万円）、経常損失50百万円（前期経常利益811百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益0百万円（前期比100.0%減、前期親会社株主に帰属する当期純利益198百万円）といたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	994	1,794
受取手形及び売掛金	1,019	974
販売土地及び建物	102	193
商品及び製品	23	28
仕掛品	221	100
原材料及び貯蔵品	50	48
前払費用	38	38
その他	591	332
貸倒引当金	△7	△7
流動資産合計	3,034	3,503
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,073	10,066
機械装置及び運搬具(純額)	1,487	1,306
土地	3,858	3,858
リース資産(純額)	1,043	963
建設仮勘定	101	45
その他(純額)	357	316
有形固定資産合計	16,922	16,557
無形固定資産	159	136
投資その他の資産		
投資有価証券	247	261
繰延税金資産	119	233
その他	259	259
貸倒引当金	△2	△6
投資その他の資産合計	624	748
固定資産合計	17,705	17,443
繰延資産		
社債発行費	0	—
繰延資産合計	0	—
資産合計	20,740	20,946

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	44	34
短期借入金	3,544	3,711
1年内償還予定の社債	19	—
リース債務	173	159
未払金	1,408	695
未払法人税等	116	188
未払消費税等	91	200
賞与引当金	215	213
その他	450	508
流動負債合計	6,065	5,711
固定負債		
長期借入金	4,476	5,355
リース債務	911	838
長期未払金	276	232
繰延税金負債	652	653
役員退職慰労引当金	48	29
退職給付に係る負債	235	243
その他	352	308
固定負債合計	6,954	7,662
負債合計	13,019	13,374
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	295	295
利益剰余金	5,669	5,513
自己株式	△20	△20
株主資本合計	6,945	6,788
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	52	62
その他の包括利益累計額合計	52	62
非支配株主持分	722	720
純資産合計	7,720	7,572
負債純資産合計	20,740	20,946

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業収益	6,527	4,975
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	5,567	5,271
販売費及び一般管理費	49	52
営業費合計	5,617	5,324
営業利益又は営業損失(△)	910	△349
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	5	6
助成金収入	—	204
違約金収入	—	36
役員退職慰労引当金戻入額	—	14
雑収入	18	28
営業外収益合計	24	291
営業外費用		
支払利息	25	27
社債発行費償却	0	0
貸倒引当金繰入額	0	3
雑支出	4	3
営業外費用合計	31	36
経常利益又は経常損失(△)	903	△94
特別利益		
補助金収入	30	39
固定資産売却益	6	0
受取保険金	35	—
特別利益合計	72	40
特別損失		
新型コロナウイルス感染症による損失	—	29
固定資産除却損	4	28
減損損失	—	6
特別損失合計	4	64
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	971	△118
法人税、住民税及び事業税	335	113
法人税等調整額	△16	△116
法人税等合計	319	△3
四半期純利益又は四半期純損失(△)	651	△115
非支配株主に帰属する四半期純利益	66	1
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	585	△116

(四半期連結包括利益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	651	△115
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	9
その他の包括利益合計	△2	9
四半期包括利益	649	△105
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	583	△106
非支配株主に係る四半期包括利益	66	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の終息は見通せない状況ではありますが、更なるコロナウイルスの大幅な感染拡大が発生しないことを前提に業績予想を策定しております。海外インバウンド需要は見込めないものの、日常生活は戻りつつあり運輸業での生活路線は僅かながら回復傾向を見込んでおります。一方で、貸切・高速バス事業およびレジャー・サービス業ではGOTOキャンペーン事業での内需拡大効果に期待はあるものの、その効果は非常に限定的であると捉えており、2020年度の業績が例年に比べ悪化しております。また、今後の見通しにつきましては、国内消費は鈍いペースではあるものの、緩やかに回復するものと想定しております。

当社グループは、このような仮定のもと、固定資産の減損処理、繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っており、想定よりも回復が遅れ、あるいは、さらなる感染拡大により将来キャッシュ・フローの見積りが低下した場合、固定資産の減損処理や繰延税金資産の取崩し等が必要となる可能性があります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	3,950	1,653	924	6,527	—	6,527
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	10	86	125	222	△222	—
計	3,960	1,739	1,049	6,749	△222	6,527
セグメント利益	361	412	133	908	1	910

(注) 1 セグメント利益の調整額1百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	2,241	2,323	410	4,975	—	4,975
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	11	76	76	163	△163	—
計	2,253	2,399	486	5,139	△163	4,975
セグメント利益又は損失 (△)	△889	647	△105	△347	△1	△349

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△1百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。